

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成26年度研究開発実施報告書

「科学技術イノベーション政策のための科学」
研究開発プログラム

研究開発プロジェクト
「STIに向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム
設計 (PESTI=ペスティ)」

研究代表者 加納 圭
(滋賀大学教育学部 准教授／京都大学物質—
細胞統合システム拠点 (iCeMS) 特任准教授)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の要約	2
2 - 1. 研究開発目標	2
2 - 2. 実施項目・内容	2
2 - 3. 主な結果	2
3. 研究開発実施の具体的内容	2
3 - 1. 研究開発目標	2
3 - 2. 実施方法・実施内容	3
3 - 3. 研究開発結果・成果	4
3 - 4. 会議等の活動	7
4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	11
5. 研究開発実施体制	11
6. 研究開発実施者	14
7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	18
7 - 1. ワークショップ等	18
7 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	19
7 - 3. 論文発表	21
7 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	22
7 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等	23
7 - 6. 特許出願	23

1. 研究開発プロジェクト名

STIに向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計（PESTI=ペスティ）

2. 研究開発実施の要約

2 - 1. 研究開発目標

- 1) 「科学への関心」や「政策への関与」等の観点からセグメンテーションやプロファイリングを行い、これまで漠然と「国民」とされていた国民像をいくつかの鮮明なセグメントで捉え直す。その上で、STIに向けた「セグメント固有のニーズ」を発掘していくこと。
- 2) セグメント固有のニーズを発掘する際には、「STI政策メニューの提示に資する」ことを最重視する。そのため、現実の政策形成につなげるための視点や工夫を加えること。
- 3) 成果を「実務家が利用できる」ようにすることを重視する。そのため、実務家との連携・協働を基本的な軸とすること。

2 - 2. 実施項目・内容

本年度の前半（2014年4月1日～2014年9月30日）に関しては、3年が予定されている研究期間の2年目に計画していた内容を、H24年度に構築した土台を基盤としながら進めた。また、本年度の後半（2014年10月1日～2015年3月31日）に関しては、研究期間3年目の前半に予定していた内容を進めるための基盤を構築した。

2 - 3. 主な結果

以下の8項目について成果を得た。

- [5]. セグメンテーション・プロファイルの改良
- [6]. 実務家と「ともに」行う、テーマ設定
- [7]. セグメント別に「政策メニュー提示に資するニーズ」を発掘する「方法論」構築
- [8]. 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）を通して国民のニーズを把握することへの実務家ニーズ調査
- [9]. 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）へのエビデンス実装
- [10]. セグメント・プロファイル、「方法論」の改良によるエビデンスの構築のための戦略立案
- [11]. エビデンスを活用したSTI政策へのセグメント別関与フレーム設計のトライアル
- [12]. 人材育成への寄与のトライアル

3. 研究開発実施の具体的内容

3 - 1. 研究開発目標

本プロジェクトでは、以下の3点を目標とする。

- 1) 「科学への関心」や「政策への関与」等の観点からセグメンテーションやプロファイ

リングを行い、これまで漠然と「国民」とされていた国民像をいくつかの鮮明なセグメントで捉え直す。その上で、STIに向けた「セグメント固有のニーズ」を発掘していくことを目標の1つとする。

- 2) セグメント固有のニーズを発掘する際には、「STI政策メニューの提示に資する」ことを最重視する。そのため、現実の政策形成につなげるための視点や工夫を加えることを目標の1つとする。
- 3) 成果を「実務家が利用できる」ようにすることを重視する。そのため、実務家との連携・協働を基本的な軸とすることを目標の1つとする。

3 - 2. 実施方法・実施内容

本年度の前半（2014年4月1日～2014年9月30日）に関しては、3年が予定されている研究期間の2年目に計画していた内容（図1）を2年度下半期に構築した土台を基盤として計画通りの実施を進めた。具体的には、以下の5項目である。

- [5]. セグメンテーション・プロファイルの改良
- [6]. 実務家と「ともに」行う、テーマ設定
- [7]. セグメント別に「政策メニュー提示に資するニーズ」を発掘する「方法論」構築
- [8]. 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）を通して国民のニーズを把握することへの実務家ニーズ調査
- [9]. 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）へのエビデンス実装

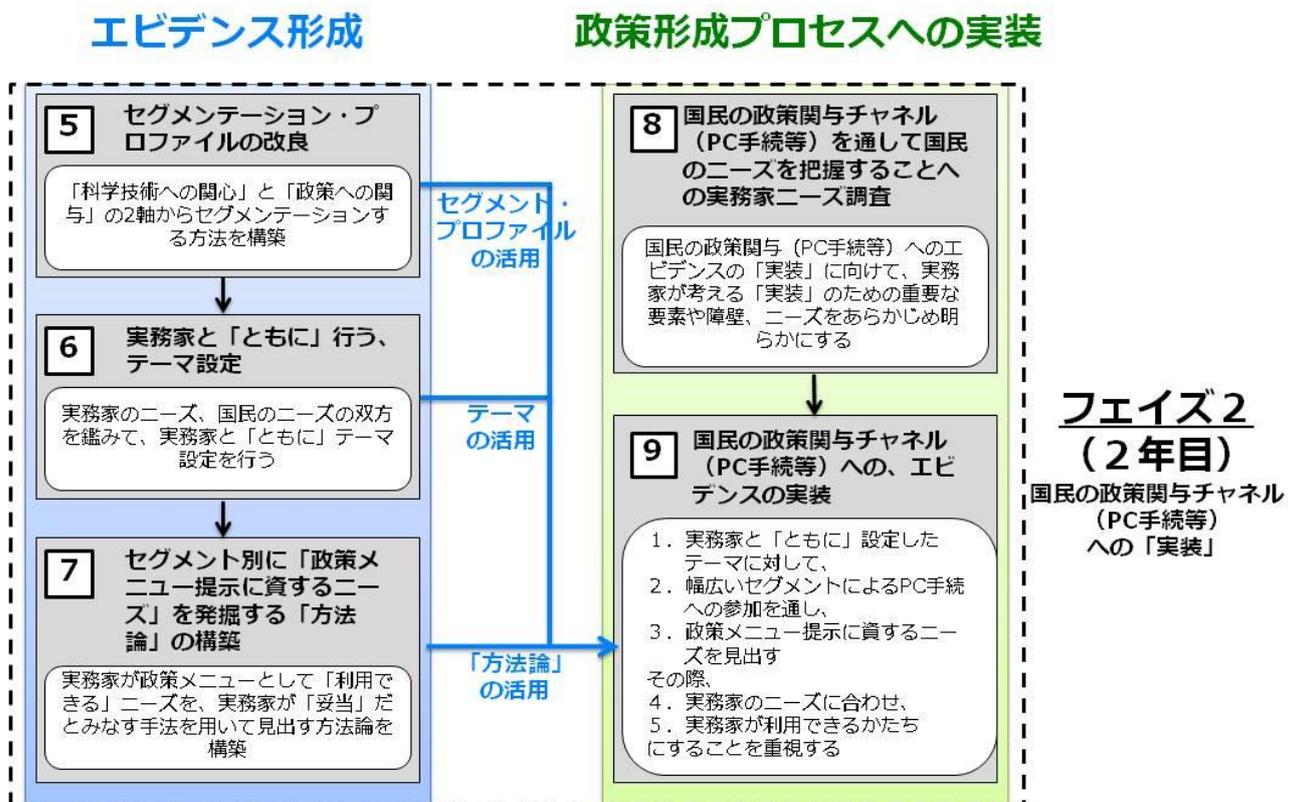


図1： 2年目の研究計画

また、本年度の後半（2014年10月1日～2015年3月31日）に関しては、研究期3年目の前半に予定している内容（図2）を進めるための基盤を構築した。具体的には以下の3項目である。

[10]. セグメント・プロファイル、「方法論」の改良によるエビデンスの構築のための戦略立案

[11]. エビデンスを活用したSTI政策へのセグメント別関与フレーム設計のトライアル

[12]. 人材育成への寄与のトライアル

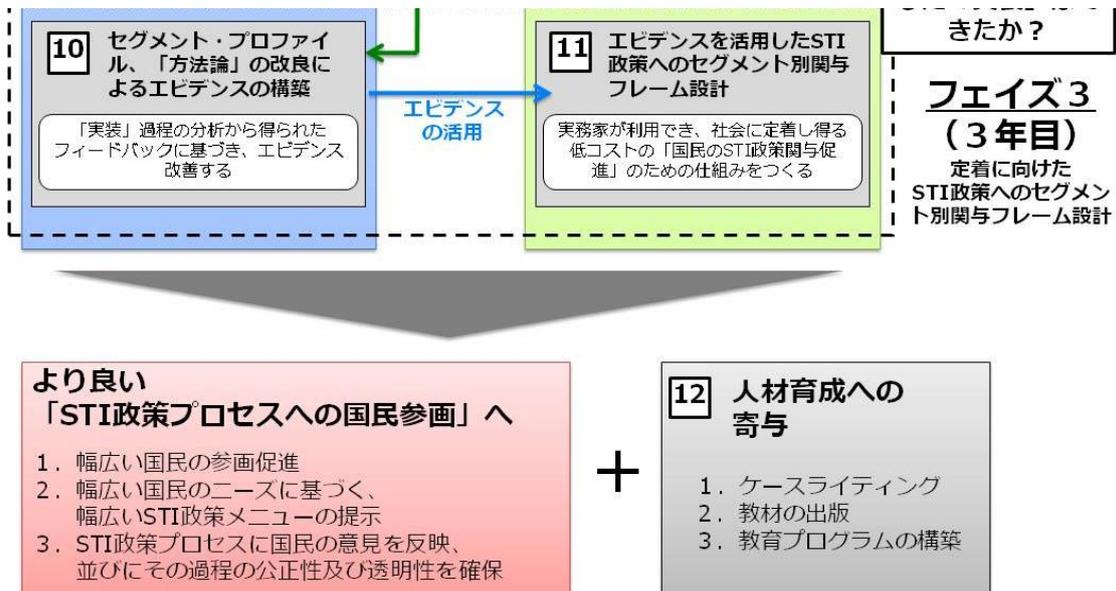


図2：3年目の研究計画

3-3. 研究開発結果・成果

実施した8つの項目ごとの研究開発結果・成果は以下の通りである。

[5]. セグメンテーション・プロファイルの改良

前年度に実施した世論調査（16歳以上の日本国民から層化二段抽出法によって選ばれた全国2000人を対象に、訪問面接聴取法を用いて行われたもの）の結果を用い、重回帰分析、k-meansクラスター分析などを行うことで、科学技術イノベーション促進への国民の支持・関与の促進に関する4つの質問項目によるセグメントモデルを開発した。

またこれと並行して、2013年度まで主に用いてきたオーストラリア・ヴィクトリア州政府の下で開発されたセグメンテーションモデルについてもより詳細な分析を進め、マーケティング分野におけるセグメンテーション手法が、パブリックエンゲージメントの参加者の多様性の評価においても有効であること、特に「科学・技術への関与度」を定量化するセグメンテーション手法が、「政策への関与度」の違いを量的に指標化する上でも有効であることを明らかにした。

[6]. 実務家と「ともに」行う、テーマ設定

実務家からのニーズを踏まえ、2013年度にPESTIの中心的な政策課題対象とした「夢ビジョン2020」に引き続き「夢ビジョン2020アクションプラン」、「オリンピック・パラリンピックレガシー」をテーマとした。また、文部科学省対話型政策形成室が実施している夢ビジョン2020オープンセッションにおいてテーマの1つとして設定された「ロボットと未来」も取り扱うこととした。

さらに、2013年度より開始した政策デザインワークショップを第2期として継続し、2014年度は第5期科学技術基本計画や、研究支援情報、芸術・文化政策などの具体的で実用的なテーマを設定することで、政策形成に向けた実務家の新たなニーズを探った。

また、また、2014年度は文部科学省をはじめとする政府だけでなく、地方自治体に対するPESTIの貢献の方法について探索することも目指すので、そのために必要な地方行政の政策課題探索を、地方行政の実務家と連携しながら行った。具体的には、滋賀県米原市における「健康づくり・福祉」、鳥取県における「地方創生」をテーマに設定した。

また、「夢ビジョン2020」に関する専門家へのウェブインタビュー調査を実施した。論文データベースとしてThomson Reuter社のWeb of Science(WoS)を利用し、キーワードの選定に当たってはJSTが運用する「JSTシソーラスmap」を用いた。意見聴取は対象者に対してメールで依頼し、ウェブ上に開設されたフォームで回答を収集する形態を採用した。意見聴取を2回行ったが、ともに回収率が低かったことから、本結果を当該分野の意見として採用することは困難だと考えられる。ただし、本手法では数十人規模の専門家から簡便に意見を得ることが出来ることから、政策立案初期にこうした手法で予備調査を行うことは一定の意義があると考えられる。

[7]. セグメント別に「政策メニュー提示に資するニーズ」を発掘する「方法論」の構築

科学技術への関与度の高い等の特定のセグメントだけでなく、様々なセグメントの人々が集まる場において国民ニーズの収集を行い、セグメント別の政策メニュー提示に資するニーズを発掘する方法論を構築した。具体的には、「出向く」アプローチと称し、科学技術への関与度の低いセグメントも広く参加している場に出向くことによって、科学技術への関与度の低いセグメントからも国民ニーズを収集できることを見いだした。また、ウェブ調査の結果から科学技術への関与度の低いセグメントの人たちが、生活に関連した課題に関心を持ちやすいことが分かっていたことを踏まえた標題の掲げ方や問いの設定、また、政策担当者の立場になって考えてもらうアイスブレイクを入れるなど、公共的視点からの意見を引き出しやすくするための工夫も行った。これらの知見を踏まえたファシリテーションマニュアルを試験的に作成した。

[8]. 国民の政策関与チャンネルを通して国民のニーズを把握することへの実務家ニーズ調査

2013年度から文部科学省の政策課題である「夢ビジョン」作成に関連実務家と協働で取り組む中で、政策メニュー作成においてどのようなエビデンスを求めており、そのような要求されるエビデンスを形成する上で国民の意見がどのように用いられるのかについて理解を深めてきたので、この作業を2014年度においても継続して行った。具体的には、夢ビジョンアクションプランやオリンピック・パラリンピックレガシー作成に関するニーズが

あり、策定したビジョンを達成するための指針や手段を合わせることで、すなわちバックキャスト型政策形成に対するニーズがあることが分かった。また、夢ビジョンアクションプランやオリンピック・パラリンピックレガシー形成プロセスだけでなく、夢ビジョンオープンセッションにおける1テーマ「ロボットと未来」における取組においても、市民の不安や抵抗感といった意見に対する実務家側のニーズがあることも分かった。加えて、意見の分布を2次的に見ることができる俯瞰図に対するニーズも明らかになった。

さらに、連携する地方自治体の実務家に対するヒアリングや、PESTIと連携して何らかの政策課題に対する政策メニュー作成に取り組む中で、地方行政の実務家が住民や国民が持つどのようなニーズを把握したいと考えているのか、そのニーズはどのような形態で抽出されると良いかについての探索も行った。例えば鳥取県における地方創生をテーマにした取組では若者にターゲットを絞ることに對する実務家側のニーズが明らかになり、政策メニュー作成に取り組む中で、若者をさらにいくつかのセグメントに分け、セグメント別の意見が分かるようにすることへのニーズも明らかになった。また、地元大学での研究シーズに対する実務家のニーズが高かったため、そのニーズに対応した鳥取大学での専門家リストや学協会リストを作成した。

[9]. 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）への実装

科学技術に対する多様な関与度を持つ人々等、多様なセグメントから形成される対話の場におけるインタラクションを分析し、得られた知見を対話の場の設計やシステム開発にフィードバックした。具体的には、科学技術への低関与層には当該の科学技術と自身の日常生活との関わりが具体的に想像できる場合にはより積極的に発言するようになるという特徴が会話データの分析から改めて確認されたことから、その知見を試験的に作成しているファシリテーションマニュアルに反映させた。また、ファシリテーターが引き出した意見をどのように記録し、参加者の合意を得るのかについて課題があることを見いだしたことから、各対話テーブルには記録係をつけるとともに、記録係が記録した意見を参加者に見せ、追加修正の機会を与えることが重要だということに至った。また、夢ビジョン2020形成プロセスにおける対話型パブコメ参加者も対象に行った報告会では、意見が届いたことが分かること自体が対話型パブコメへの参加動機付けになることが分かり、集められたパブリックコメントのトレーサビリティを確保するシステムの開発にフィードバックされた。

また、実務家から意見の分布を2次的に見ることができる俯瞰図に対するニーズがあったことから、それを実現するためのシステム開発を試験的に行った。

加えて、対話型パブリックコメント手法を用いるゆるやかなネットワークの構築も引き続き行った。

[10]. セグメント・プロフィール、「方法論」の改良によるエビデンスの構築のための戦略立案

世論調査で得られたデータをNISTEPのデータ・情報基盤で共有することに決まった。

[11]. エビデンスを活用したSTI政策へのセグメント別関与フレーム設計のトライアル

ここまでの活動で得られた知見を、社会実装するための形態・方法を模索した。対話型パブコメの活動の継続のための組織作り、既存のパブリックエンゲージメント団体との連

携、対話型パブコメ人材を育成するためのトレーニング機会提供、文部科学省対話型政策形成室との連携など、様々な形態を検討している。

[12]. 人材育成への寄与のトライアル

人材育成教材の試験的開発と実装への可能性を探った。教材開発にはゲーミフィケーションの要素を取り入れることとし、本プロジェクトの活動を通して経験的に見いだした課題を解決できるようなものとする事とした。人材育成教材を用いた教育プログラムの実装先については、SciREX人材育成拠点での特別授業や文部科学省内での研修で用いる可能性について模索した。

3 - 4. 会議等の活動

・実施体制内での主なミーティング等の開催状況

年月日	名称	場所	概要
2014年 4月3日	【グループ会議】 実践評価G	京都大学	投稿論文の改訂に関する議論、H25年度の活動に関する議論
2014年 4月7日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	京都大学	H25年度活動内容の確認、成果発表の際のオーサーシップガイドラインの検討
2014年 4月7日	【グループ会議】 場づくりサブG	ナレッジキャピタル(大阪市北区)	4月29日開催のシンポジウムに関する議論、PESTI連携団体に関する議論
2014年 4月29日	【グループ会議】 場づくりサブG	ナレッジキャピタル(大阪市北区)	シンポジウム開催直前の最終確認
2014年 4月29日	【全体会議】 全体運営会議	ナレッジキャピタル(大阪市北区)	シンポジウム開催直後の振り返り、政策デザインワークショップに関する議論
2014年 5月13日	【グループ会議】 専門家連携G	京都大学 & 鳥取大学 (Skypeにて)	グループの今後の具体的な活動内容についての議論
2014年 5月13日	【グループ会議】 実務家連携G	京都大学	政策デザインワークショップに関する議論
2014年 5月19日	【グループ会議】 場づくりサブG	ナレッジキャピタル(大阪市北区)	低関与層へアプローチするための場づくりのあり方についての議論
2014年 5月22日	【グループ会議】 実務家連携G&実践評価G &仕組みづくりサブG	京都大学	米原での対話型パブコメで収集した意見集約についての議論
2014年	【グループ会議】	京都大学	H25年度の活動に関する議論

5月22日	実践評価G		
2014年 5月22日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	トレーサビリティシステムの今後の方針に関する議論
2014年 5月26日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	京都大学	PESTIシンポジウム報告書作成の方針、作業工程に関する議論
2014年 5月30日	【グループ会議】 場づくりサブG&実践評価G	神戸大学	低関与層を対象とした場づくりのための調査設計に関する議論
2014年 6月2日	【グループ会議】 実務家連携G	京都大学	米原での対話型パブコメで収集した意見の集約についての議論、政策デザインワークショップについての議論
2014年 6月5日	【グループ会議】 場づくりサブG&実践評価G	ナレッジキャピタル(大阪市北区)	低関与層を対象とした場づくりのための調査設計についての議論
2014年 6月7日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	京都大学	研究開発期間終了後の展望についての議論
2014年 6月13日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	京都大学	プロジェクトの実施内容に関する振り返り
2014年 6月19日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	トレーサビリティシステムについての議論
2014年 6月23日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (PESTIモデル構築チーム) & 実務家連家G	京都大学	世論調査の結果の分析、調査結果の公開にむけた議論
2014年 6月26日	【グループ会議】 専門家連携G	京都大学	専門家に対する調査の準備作業
2014年 6月27日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (Victoriaモデル検証チーム)	京都大学	今後の研究の進め方について議論
2014年 7月3日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	トレーサビリティシステムについての議論
2014年 7月5日	【全体会議】 全体運営会議	ナレッジキャピタル(大阪市北区)	夢ビジョンに関する今後の取り組みについての議論、低関与層向けの対話型パブコメについての議論
2014年 7月5日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	ナレッジキャピタル(大阪市北	H25年度の活動に関する議論

		区)	
2014年 7月8日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	トレーサビリティシステムについての議論
2014年 7月17日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	滋賀大学	研究プロジェクトの進捗状況と今後の方針の確認
2014年 7月23日	【グループ会議】 セグメンテーション・ ニーズ発掘G (Victoria モデル検証チーム)	京都大学	今後の研究の進め方について議論
2014年 7月24日	【グループ会議】 専門家連携G	京都大学 & 鳥取大学 (Skypeにて)	専門家に対する調査の準備作業
2014年 7月25日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	生駒市	研究プロジェクトの進捗状況と今後の方針の確認
2014年 7月28日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	PESTI紹介チラシに関して議論
2014年 7月30日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG & 実践評価G	京都大学	対話型パブコメの振り返り
2014年 8月1日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	滋賀大学	研究プロジェクトの進捗状況と今後の方針の確認
2014年 8月5日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	テキストマイニングについての議論
2014年 8月7日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	テキストマイニングについての議論
2014年 8月8日	【グループ会議】 実務家連携G	京都大学	研究成果のまとめ方についての議論
2014年 8月8日	【グループ会議】 セグメンテーション・ ニーズ発掘G (PESTI モデル構築チーム) & 実務家連家G	京都大学	世論調査の結果の分析、調査結果の公開にむけた議論
2014年 8月22日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	活動内容のアーカイブの仕方に関する議論
2014年 9月8日	【グループ会議】 セグメンテーション・ ニーズ発掘G (Victoria モデル検証チーム)	京都大学	研究成果のまとめ方について議論
2014年 9月17日	【グループ会議】 場づくりサブG & 実	ナレッジキャピタル(大	研究成果のまとめ方についての議論

	践評価G	阪市北区)	
2014年 9月30日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	滋賀大学	H26年度に実施すべき活動内容 の整理、社会実装に向けた議論
2014年 10月23日	【グループ会議】 場づくりサブG	ナレッジキ ャピタル(大 阪市北区)	対話型パブコメに関する議論
2014年 11月13日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	滋賀大学	H27年度の実施体制に関する議 論
2014年 11月17日	【グループ会議】 実務家連携G	ナレッジキ ャピタル(大 阪市北区)	SciREXとの連携に関する議論
2014年 11月17日	【グループ会議】 セグメンテーション・ ニーズ発掘G (PESTI モデル構築チーム) & 実務家運営G	京都大学	世論調査結果の分析と調査結果 の公開にむけた議論
2014年 11月17日	【全体会議】 全体運営会議	ナレッジキ ャピタル(大 阪市北区)	社会実装にむけた議論
2014年 11月25日	【グループ会議】 専門家連携G	京都大学 & 鳥取大学 (Skype に て)	専門家に対する調査についての 議論、鳥取での調査についての議 論
2014年 11月25日	【グループ会議】 セグメンテーション・ ニーズ発掘G (Victoria モデル検証チーム)	京都大学	調査設計に関する議論
2014年 12月1日	【グループ会議】 セグメンテーション・ ニーズ発掘G (Victoria モデル検証チーム)	京都大学	世論調査結果の分析方法につい ての議論
2014年 12月5日	【グループ会議】 専門家連携G	京都大学	専門家に対する調査についての 議論
2015年 1月5日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	京都大学	H27年度の予算についての議論
2015年 1月6日	【全体会議】 全体運営会議	ナレッジキ ャピタル(大 阪市北区)	H27年度の予算についての議論、 社会実装に向けた議論
2015年 1月8日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	滋賀大学	H27年度の活動計画について議 論
2015年	【グループ会議】	京都大学品	「対話型パブコメの記録」(Web

1月16日	研究代表者からなるG	川オフィス	&小冊子) 作成のための議論
2015年 1月16日	【グループ会議】 専門家連携G&実務家 連携G	京都大学 & 鳥取大学 (Skypeに て)	鳥取県庁との連携について議論
2015年 1月19日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学 & 滋賀大学 (S kypeにて)	「対話型パブコメの記録」(Web &小冊子) 作成のための議論
2015年 2月2日	【グループ会議】 セグメンテーション・ ニーズ発掘G (PESTI モデル構築チーム)	京都大学	研究成果発表に関する議論
2015年 2月4日	【グループ会議】実務 家連携G	文部科学省 情報ひろば	研究成果発表に関する議論
2015年 2月7日	【グループ会議】 専門家連携G&実務家 連携G	クロス・ウェ ーブ府中	専門家に対する調査のまとめ方 に関する議論、鳥取県庁との取組 に関する議論
2015年 2月18日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	ナレッジキ ャピタル(大 阪市北区)	最終報告書の作成の準備のため の議論
2015年 3月10日	【全体会議】 全体運営会議	ナレッジキ ャピタル(大 阪市北区)	H27年度の実施体制についての 議論

4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- 1) 他PJとも連携し、政策デザインワークショップシリーズ(第2期)を、H26年度中に3回実施した。
- 2) 対話型パブコメ手法を次世代スーパーコンピュータ(ポスト京)の研究課題に関する意見公募に適用し、本研究開発成果の活用をした。
- 3) 主に京都市民によって構成されている「パブコメ普及協会」と引き続き連携し、「対話型パブリックコメント」の普及展開の準備を行った。

5. 研究開発実施体制

研究代表者及びその率いるグループ(加納圭)

滋賀大学教育学部、京都大学物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)

実施項目: プロジェクトマネジメント

[10]. セグメント・プロファイル、「方法論」の改良によるエビデンスの構築のための戦略立案

[12]. 人材育成への寄与

概要：各グループ内・間のマネジメントを行う。

[10]. ここまでの活動で得られたデータをNISTEPのデータ・情報基盤で共有する方法を模索する

[12]. 教育プログラム開発および人材育成プログラム等への実装の可能性を模索する

セグメンテーション・ニーズ発掘グループ（菅万希子）

帝塚山大学経営学部、京都大学大学院経済学研究科、京都大学大学院経営管理研究部

実施項目：主として「I-2 研究開発の主なスケジュール」における以下の項目を実施する。

[5]. セグメンテーション・プロフィール改良

[7]. セグメント別に「政策メニュー提示に資するニーズ」を発掘する「方法論」構築

[10]. セグメント・プロフィール、「方法論」の改良によるエビデンスの構築のための戦略立案

概要：

[5]. 訪問面接聴取法による世論調査の結果や、科学技術への関与度に基づくセグメンテーション手法を用いたデータを統合し、これまでのセグメンテーションとプロフィールングを改良する

[7]. 場・標題の掲げ方、問いかけ方、Willing to pay調査の実施等の具体的な方法を分析する

[10]. 実装過程から得られたフィードバックを活かし、改良したセグメンテーション・プロフィール構築を試みる。

場づくり・仕組みづくり・社会実装グループ（伊藤真之）

神戸大学大学院人間発達環境学研究科、京都大学学術情報メディアセンター、京都大学情報環境機構、京都大学大学院情報学研究科、京都大学物質－細胞統合システム拠点(iCeMS)、滋賀大学教育学部

実施項目：主として「I-2 研究開発の主なスケジュール」における以下の項目を実施する。

[9]. 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）へのエビデンス実装

[11]. エビデンスを活用したSTI政策へのセグメント別関与フレーム設計のトライアル

概要：

[9]. 「対話型パブリックコメント」手法を用い、「夢ビジョン2020」などの将来ビジョンに関わる政策課題についての国民ニーズ収集活動を行う。また、「国民ニーズから政策メニュー提案までに係るプロセス」を視覚化・可視化する方法論を構築し、具体的にそれを視覚化・可視化する情報システムを開発する。さらに、全国の科学コミュニケーション活動関連団体に参加・協力を呼び掛け、対話型パブリックコメント手法を用いるゆるやかなネットワークの構築を行う。

[11]. ここまでの活動で得られた知見を、社会実装するための形態・方法を模索する。

実践評価グループ（高梨克也）

京都大学学術情報メディアセンター、京都大学情報環境機構、京都大学物質－細胞統合システム拠点(iCeMS)

実施項目：主として「I-2 研究開発の主なスケジュール」における以下の項目を実施する。

[8]. 国民の政策関与チャンネルを通して国民のニーズを把握することへの実務家ニーズ調査

[9]. 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）へのエビデンス実装

概要：

[8]. 実務家のヒアリング等、実務家のニーズ抽出にかかわるインタラクション等を分析する。

[9]. 科学技術に対する多様な関与度を持つ人々等、多様なセグメントから形成される対話の場におけるインタラクションを分析し、得られた知見を対話の場の設計にフィードバックする。

実務家連携グループ（吉澤剛）

大阪大学大学院医学系研究科、京都大学物質－細胞統合システム拠点(iCeMS)、滋賀大学教育学部

実施項目：主として「I-2 研究開発の主なスケジュール」における以下の項目を実施する。

[6]. 実務家と「ともに」行う、テーマ設定

[8]. 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）を通して国民のニーズを把握することへの実務家ニーズ調査

[11]. エビデンスを活用したSTI政策へのセグメント別関与フレーム設計のトライアル

概要：

[6]. 実務家とともに政策課題を設定する。

- [8]. 実務家のニーズ調査を行う。
[11]. ここまでの活動で得られた知見を、社会実装するための形態・方法を模索する。

専門家連携グループ（加納圭）

滋賀大学教育学部、鳥取大学産学・地域連携推進機構、京都大学物質－細胞統合システム拠点(iCeMS)

実施項目：主として「I-2 研究開発の主なスケジュール」における以下の項目を実施する。

- [6]. 実務家と「ともに」行う、テーマ設定
[11]. エビデンスを活用したSTI政策へのセグメント別関与フレーム設計のトライアル

概要：

- [6]. 設定テーマに関する専門家へのインタビュー調査等を実施する。
[11]. ここまでの活動で得られた知見を、社会実装するための形態・方法を模索する。

6. 研究開発実施者

研究代表者からなるグループ：滋賀大学、京都大学

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発 実施項目	研究参加期間			
						開始		終了	
						年	月	年	月
○	加納 圭	カノウ ケイ	滋賀大学教育学部／京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	准教授 ／特任 准教授	全体統括／グループ間のマネジメントと各グループの進捗管理／人材育成への貢献	24	10	27	9
	水町 衣里	ミズマ チエリ	京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	特定研究員	研究代表者の補佐	24	10	27	9
	秋谷 直矩	アキヤ ナオノリ	京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	特定研究員	研究代表者の補佐	24	10	27	9
*	工藤 充	クドウ ミツル	京都大学物質－細胞統合システム拠点	特定研究員	各グループの研究開発への参加／成果実装・定着	25	4	27	9

			(iCeMS)		に向けた戦略立案				
*	山下 海華	ヤマシ タミ カ	滋賀大学教育 学部	技術補 佐員	グループ間マネ ジメント、人材育 成への貢献、場づ くりにかかる資 料・データ整理等 の補助業務	26	4	27	9

セグメンテーション・ニーズ発掘グループ：帝塚山大学、京都大学

	氏名	フリガ ナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発 実施項目	研究参加期間			
						開始		終了	
						年	月	年	月
○	菅 万希子	スガ マ キコ	帝塚山大学経 営学部	准教授	グループ統括/ 及び全国民を対 象としたマーケ ティング調査/ セグメンテーシ ョン/プロファ イル作成の実施	24	10	27	9
	日置 弘一郎	ヒオキ コウイ チロウ	京都大学大学 院経済学研究 科	教授	研究開発の社会 的影響についての 評価	24	10	27	9

場づくり・仕組みづくり・社会実装グループ：神戸大学、京都大学

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発 実施項目	研究参加期間			
						開始		終了	
						年	月	年	月
○	伊藤 真之	イトウ マサユキ	神戸大学大学 院人間発達環 境学研究科	教授	グループ統括/ 場づくり/研究 開発全般業務	24	10	27	9
	森 幹彦	モリ ミ キヒコ	京都大学学術 情報メディア センター	助教	実装に向けた仕 組みづくり(シス テム開発) 統括	24	10	27	9
	元木 環	モトキ タマキ	京都大学情報 環境機構/学 術情報メディ アセンター	助教	実装に向けた仕 組みづくり(情報 デザイン)	24	10	27	9
	中山 晶絵	ナカヤマ アキエ	神戸大学大学 院人間発達環 境学研究科	教育研 究補佐 員	場のデザインと 実装/評価	24	10	27	9

	蛭名 邦禎	エビナ クニヨシ	神戸大学大学院人間発達環境学研究科	教授	研究開発全般への助言	24	10	27	9
	源 利文	ミナモト トシフミ	神戸大学大学院人間発達環境学研究科	特命助教	場のデザインと実装/評価	24	11	27	9
	森村 吉貴	モリムラ ヨシタカ	京都大学情報環境機構/学術情報メディアセンター	助教	実装に向けた仕組みづくり(システム開発)	24	10	27	9
	水町 衣里	ミズマチ エリ	京都大学物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)	特定研究員	場のデザインと実装/評価	24	10	27	9
	加納 圭	カノウ ケイ	滋賀大学教育学部/京都大学物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)	准教授/特任准教授	場のデザインと実装/評価	24	10	27	9
*	鷺 純代	サギス ミヨ	神戸大学大学院人間発達環境学研究科	事務補佐員	場づくりの補助	25	1	27	9

実践評価グループ：京都大学

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発 実施項目	研究参加期間			
						開始		終了	
						年	月	年	月
○	高梨 克也	タカナシ カツヤ	京都大学学術情報メディアセンター	産学連携研究員	グループ統括/場づくり/研究開発全般業務	24	10	27	9
	秋谷 直矩	アキヤ ナオノリ	京都大学物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)	特定研究員	場の評価	24	10	27	9
	森 幹彦	モリ ミ キヒコ	京都大学学術情報メディアセンター	助教	場の評価に向けた仕組みづくり(システム開発)統括	24	10	27	9
	森村 吉貴	モリムラ ヨシタカ	京都大学情報環境機構/学	助教	場の評価に向けた仕組みづくり	24	10	27	9

			術情報メディアセンター		(システム開発)				
	元木 環	モトキ タマキ	京都大学情報環境機構／学術情報メディアセンター	助教	場の評価に向けた仕組みづくり (情報デザイン)	24	10	27	9

実務家連携グループ：大阪大学、京都大学

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発 実施項目	研究参加期間			
						開始		終了	
						年	月	年	月
○	吉澤 剛	ヨシザワ ゴウ	大阪大学大学院医学系研究科	准教授	グループ統括／ 実務家との連携・協働	24	10	27	9
	水町 衣里	ミズマチ エリ	京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	特定研究員	実務家を対象としたワークショップの企画・運営	24	10	27	9
	加納 圭	カノウ ケイ	滋賀大学教育学部／京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	講師／ 特任講師	実務家を対象としたワークショップの企画・運営	24	10	27	9

専門家連携グループ：京都大学、鳥取大学

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発 実施項目	研究参加期間			
						開始		終了	
						年	月	年	月
○	加納 圭	カノウ ケイ	滋賀大学教育学部／京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	准教授 ／特任 准教授	グループ統括、専門家及び産学連携コーディネーターとの連携・協働	24	10	27	9
	前波 晴彦	マエナミ ハルヒコ	鳥取大学産学・地域連携推進機構	講師	産学連携コーディネーターとの連携・協働	24	10	27	9
	水町 衣里	ミズマチ エリ	京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	特定研究員	専門家との連携・協働	24	10	27	9

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

7-1. ワークショップ等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
2014年 4月25日	政策デザインワークショップ第2期：第1回「フォローアップから見えてきた基本計画の課題」	STANDARD 会議室虎ノ門Annex1階A 会議室	30人	科学技術イノベーション政策のあるべき姿について、実務家と共に議論するための会を開催した。
2014年 4月29日	シンポジウム「大阪発！2020オリンピックイヤーへの夢ビジョン～科学技術イノベーション政策にモノ申してみた～」	うめきた・グランフロント大阪 北館タワーC 8階ナレッジキャピタル、カンファレンスルーム (Room 01+02)	53人	文部科学省発表の『夢ビジョン2020（2014年1月）』について、本プロジェクトが果たした役割などを紹介し、国民の意見を政策に反映させることについて議論を深めた。
2014年 5月2日	対話型パブコメ「次のスパコン“ポスト『京』”の『使い方』を考える」	神戸大学統合研究拠点4階ラウンジ	30人	スパコンについての解説を聞いた後で、参加者で議論し、パブリックコメントへのアイデアを集約することを試みた。
2014年 6月9日	政策デザインワークショップ第2期：第2回「研究・イノベーションを支援するための情報のあり方」	交流カフェエキスパート倶楽部	20人	科学技術イノベーション政策のあるべき姿について、実務家と共に議論するための会を開催した。
2014年 7月9日	対話型パブコメ「2020年の日本の社会について語ろう」	神戸大学人間発達環境学研究科 A棟2階 中会議室A	8人	神戸市立鶴甲小学校のPTAの方々を対象とし、将来の日本の社会像について議論するワークショップを開催した。
2014年 7月25日	第18回パブコメ勉強会	ひと・まち交流館京都 2階 市民活動総合センター	7人	過去のパブコメ実施例などの知見に基づいて、革新的なパブコメのあり方について考えるための勉強会を開催した。
2014年 8月29日	政策デザインワークショップ第2期：第3回「芸術・文化支援のあり方」	TKP虎ノ門会議室カンファレンス	17人	科学技術イノベーション政策のあるべき姿について、実務家と共に議論するための会を

		ルーム3A		開催した。
2014年 11月7-9 日	サイエンスアゴラ内「夢 ビジョン2020展示会～ 徹底的に「みんなの夢」 を語ろう～」	東京国際交 流館 国際交 流会議場(サ イエンスア ゴラ2014 内)	500人	夢ビジョンができるまでのこ れまでの経緯をポスターで紹介 すると同時に、来場者への アンケートを実施した。

7 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、DVD

- ・特になし

(2) ウェブサイト構築

- ・特になし

(3) 学会（7-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・会名：第7回若手研究者、行政官、技術者のための科学技術ゼミ
会場：東京都内
発表タイトル：将来の社会ビジョンと科学技術について
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）
開催日：2014年6月21日
- ・会名：宇宙学セミナー
会場：京都大学総合博物館
発表タイトル：『対話型パブリックコメント』という市民参画手法の紹介～宇宙基本
計画（案）へのパブリックコメントを例に～
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）
開催日：2014年6月27日
- ・会名：Summer Fair 特別講演会
会場：学校法人駿河台学園 駿台予備学校 京都南校
発表タイトル：再生医療の実現化に向けて～NHK番組『考えるカラス～科学の考え方
～』もとりあげます～
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）
開催日：2014年8月3日
- ・会名：Summer Fair 特別講演会
会場：学校法人駿河台学園 駿台予備学校 神戸校
発表タイトル：再生医療の実現化に向けて～NHK番組『考えるカラス～科学の考え方
～』もとりあげます～
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）
開催日：2014年8月4日

- ・会名：Summer Fair 特別講演会
会場：学校法人駿河台学園 駿台予備学校 上本町校
発表タイトル：再生医療の実現化に向けて～NHK番組『考えるカラス～科学の考え方～』もとりあげます～
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）
開催日：2014年8月9日

- ・会名：Summer Fair 特別講演会
会場：学校法人駿河台学園 駿台予備学校 大阪校
発表タイトル：再生医療の実現化に向けて～NHK番組『考えるカラス～科学の考え方～』もとりあげます～
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）
開催日：2014年9月2日

- ・会名：NISTEPデータ・情報基盤ワークショップ～政策形成を支えるエビデンスの充実に目指して～
会場：文部科学省 科学技術・学術政策研究所
発表タイトル：国民の科学技術政策への理解・関与促進モデル開発のための世論調査
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）
開催日：2015年2月4日

- ・会名：島根大学FDセミナー
会場：島根大学松江キャンパス 附属図書館
発表タイトル：地域の芽を育てる 地域が芽を育てる
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）
開催日：2015年2月17日

- ・会名：科学コミュニケーション勉強会@JST
会場：JST 東京本部 別館
発表タイトル：STI（科学技術イノベーション）に向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計（PESTI=ペスティ）
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）
開催日：2015年2月23日

- ・会名：学融合推進センター・育成型共同研究・学内公開セミナー「科学技術コミュニケーションの実践知理解に基づくディスカッション型教育メソッドの開発」
会場：国際交流館
発表タイトル：スキルトレーニング手法の開発と実践～科学コミュニケーション・科学教育の現場から～
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）
開催日：2015年3月7日

- ・会名：第2回比良おろしワークショップ（第282回生存圏シンポジウム・京都大学百家争鳴プログラム）
会場：大津市のびわこ成蹊スポーツ大学

発表タイトル：科学技術イノベーション（STI）政策に向けた市民との対話・協働の
取組み

発表者：吉澤剛（大阪大学）

開催日：2015年3月7日

7 - 3. 論文発表

(1) 査読付き（4件）

●国内誌（3件）

- ・ 著者：水町衣里、加納圭、伊藤真之、源利文、中山晶絵、蛭名邦禎、秋谷直矩
発表論文名：パブリックコメント・ワークショップの試行：「宇宙基本計画(案)」
をテーマとしたワークショップの事例報告
掲載誌名：科学技術コミュニケーション
掲載巻（号）頁：15, 123-136
発行年：2014
- ・ 著者：秋谷直矩、高梨克也、水町衣里、工藤充、加納圭
発表論文名：何者として、何を話すか：対話型ワークショップにおける発話者
アイデンティティの取り扱い
掲載誌名：科学技術コミュニケーション
掲載巻（号）頁：15, 107-122
発行年：2014
- ・ 著者：後藤崇志、水町衣里、工藤充、加納圭
発表論文名：科学・技術イベント参加者層評価に豪州発セグメンテーション手法
を用いることの有効性
掲載誌名：科学技術コミュニケーション
掲載巻（号）頁：15, 17-35
発行年：2014

●国際誌（1件）

- ・ 著者：加納圭
発表論文名：Toward Achieving Broad Public Engagement with Science,
Technology, and Innovation Policies: Trials in JAPAN Vision 2020
掲載誌名：International Journal of Deliberative Mechanisms in Science
掲載巻（号）頁：3 (1), 1-23
発行年：2014

(2) 査読なし（1件）

著者：伊藤真之

掲載誌名：

Link：地域・大学・文化：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
年報（特集:専門知と市民知-現場から問う）

論文名：「科学コミュニケーションの現状と課題：実践者の立場から」
掲載巻（号）頁：6, 36-49
発行年：2014年

7 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

(1) 招待講演（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

- ・特になし

(2) 口頭発表（国内会議 4 件、国際会議 2 件）

- ・学会名：13th International Public Communication of Science and Technology Conference

会場：Pestana Hotel, Salvador, Brazil

発表タイトル：Framework For Broad Public Engagement in Science, Technology and Innovation Policy (PESTI)

発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）、秋谷直矩（京都大学）、丁瀟君（京都大学）、蛭名邦禎（神戸大学）、後藤崇志（京都大学）、日置弘一郎（京都大学）伊藤真之（神戸大学）、工藤充（京都大学）、前波晴彦（鳥取大学）、源利文（神戸大学）、水町衣里（京都大学）、森幹彦（京都大学）森村吉貴（京都大学）、元木環（京都大学）、中山晶絵（神戸大学）、菅万希子（帝塚山大学）、高梨克也（京都大学）、吉澤剛（大阪大学）

開催日：2014年5月8日

- ・学会名：第10回科学コミュニケーション研究会年次大会

会場：早稲田大学 早稲田キャンパス

発表タイトル：科学技術イノベーション政策形成のためのパブリックエンゲージメントについての省察：「夢ビジョン2020」への取組みを事例として

発表者：工藤充（京都大学）

開催日：2014年9月7日

- ・学会名：日本科学教育学会第38回大会

会場：埼玉大学 大久保キャンパス

発表タイトル：科学への低関与層も含めた幅広い人々の科学技術への関与 -科学技術イノベーション政策へのパブリックエンゲージメント-

発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）、工藤充（京都大学）、菅万希子（帝塚山大学）、前波晴彦（鳥取大学）、水町衣里（京都大学）、吉澤剛（大阪大学）

開催日：2014年9月15日

- ・学会名：The Society for the Study of Nanoscience and Emerging Technologies 6th Annual Meeting: Better Technologies with No Regrets?

会場：Karlsruhe Institute of Technology, Karlsruhe, Germany

発表タイトル：Reflecting on the close collaboration with policy practitioners in developing a model of public engagement with science, technology and innovation policy in Japan

発表者：工藤充（京都大学）

開催日：2014年9月22日

- ・学会名：研究・技術計画学会 第29回年次学術大会
会場：立命館大学びわこ・くさつキャンパス
発表タイトル：STI政策へのパブリックエンゲージメント：「再生医療」と「夢ビジョン2020」を対象に
発表者：吉澤剛（大阪大学）、加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）、工藤充（京都大学）、菅万希子（帝塚山大学）、前波晴彦（鳥取大）、水町衣里（京都大学）
開催日：2014年10月18日
- ・学会名：科学技術社会論学会第13回年次研究大会
会場：大阪大学豊中キャンパス
発表タイトル：「再生医療」と「夢ビジョン2020」を対象としたパブリックエンゲージメント
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）
開催日：2014年11月15日

(3) ポスター発表（国内会議__0__件、国際会議__0__件）

- ・特になし

7 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿（__1__件）

- ・京都新聞、2015年3月20日朝刊、「ファストフード店をサロンに…京都大が描く新「社会デザイン」」

(2) 受賞（__0__件）

- ・特になし

(3) その他（__0__件）

- ・特になし

7 - 6. 特許出願

(1) 国内出願（__0__件）

- ・特になし

(2) 海外出願（__0__件）

- ・特になし